

清水区で空を見上げていると
昼でも夜でもたくさんの飛行機が
飛んでいるのがよく分かるんだよね



「消防学校ニュース」

平成29年12月15日発行



郷 隆志 氏「報道対応」
(元 SBS 静岡放送アナウンサー)

12月4日(月)、県内11の消防本部(局)から、各消防組織の要を担う14名の消防司令長、消防司令が入校し、上級幹部科の3日間の合宿による課程に臨みました。

山積する多くの課題に対して的確に対応するために消防力・組織力の強化・向上が強く求められる中、多彩な顔ぶれの講師陣による講義や他の消防本部との意見交換等を通じて、組織全体を円滑に管理運営するために必要な知識や情報、見方・考え方などを会得するよう、熱心に取り組みました。



諏訪部 史人 氏(弁護士)
「消防活動に関する訴訟問題と対応」

消防職員幹部教育 上級幹部科 (第16期)



加藤 俊之 氏「危機管理」
(消防大学校副校長)

サニー カミヤ 氏
「人事管理」(消防組織マネジメント)
(一社)日本防災教育訓練センター
代表理事



6日(水)までの3日間という短い期間とはいえ、日常業務から離れ、“良い刺激”と“気づき”を得るとともに、所属の組織や業務の現状を客観的に見る貴重な機会となったのではないのでしょうか。更には、第16期生のネットワークも形成できたものと思います。所属に戻られての一層の御活躍を期待します。



直面する課題について「事例研究」(… 幹部職員として抱える悩み、疑問、問題点等を共有することもできました)

12月9日(土)、10日(日)の2日間の日程で、県内20市町の消防団から部長、分団長など56名の参加を得て、分団指揮課程の教育訓練を実施しました。

この課程は、東日本大震災を契機に平成25年に公布・施行された「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」を受けて、「消防学校の教育訓練の基準」(消防庁告示)が見直され、新たに設けられたものです。

到達すべき目標は、① 分団指揮者としての職責を自覚し、消防団の管理運営及び活性化に資する広い知識を有していること、② 各種災害時における、分団の管理運営及び効果的な現場活動のあり方を深く理解していることです。

参加された消防団員の皆さんは、日頃の団組織の管理運営や災害時における現場活動を的確に行えるよう、勉学とともに意見・情報交換に励みました。

消防団員幹部教育 指揮幹部科 分団指揮課程 (第3期)

増井 東 氏(浜松市消防団長)
「分団指揮者としての職責と心構え」



自由討論(事例研究)では、消防団員を確保するに当たっての問題点として、消防団のイメージは“訓練が多く負担が大きい”“活動が大変”であることが指摘されました。

入団者勧誘のための推奨事例としては、地元大学や地元のイベント等での広報活動の実施等のほか、入団者に配布する消防団員証明書の提示により地元商工会加入店舗で優遇を受けられるという御前崎市の事例も紹介されました。

今後に向けては、とにかくイメージアップを図ることが大事とする一方で、消防団員協力企業としての事業税減免制度の周知を図るなど現実的な対応策も出されました。



自由討論「消防団員の確保に必要なこと」
(… 他の地域の分団の話が聞けて良かったという多くの声がありました)

冬季カリキュラムがスタート!

消防職員初任科教育 初任科 (第88期)



実科、昼食、最後に座学
というのは、初任科生にと
って、ある意味厳しい時間
割かもしれないな...

消防学校では、12月から1月まで、午後4時限実施していた初任科の実科訓練を午前の部に切り替えるという冬季カリキュラムを開始しました。1時限目から4時限目まで実科訓練、その後に昼食・休憩、そして夕方までの3時限が座学となります。日没が早くなり、暗くて安全管理が難しくなる時間帯の実科訓練を避けるための措置です。実際のところ、午後3時を過ぎる頃には周囲の山で日が遮られ、学校全体が日陰の中、寒さも一段と厳しくなります。



志太消防本部が見守る中、
基本放水体形作成(消防活動訓練)
の効果測定を実施



初任科第88期は、12月に入って、座学では「防災」「査察」「予防広報」さらには「コンプライアンス」(県人事課)などを学ぶ一方、実科では、「訓練礼式」の効果測定を行うとともに、「消防活動訓練」「機器取扱訓練」のステップアップを図り、いよいよ「救助訓練」も始まりました。

こうして頑張っている初任科生に対して、次のとおり消防本部(局)から視察・督励に来校いただきました。誠にありがとうございました。

- 12月1日 志太消防本部 (山田 広幸 消防次長ほか)
- 12月11日 御前崎市消防本部 (野賀 敏之 消防長ほか)
- 12月12日 静岡市消防局 (青山 雅行 消防局長ほか)
駿東伊豆消防本部 (山中 史隆 消防長ほか)
- 12月15日 浜松市消防局
(相曾 太 北消防署長、平谷 睦 中消防署副署長)
湖西市消防本部 (山本 智康 消防長ほか)



↑御前崎市消防本部の熱い視線を
背に、実火災体験型訓練(ホットレ
ーニング)を実施



←湖西市消防本部の期待を浴びなが
ら、セーラー渡過、モンキー渡過、フ
ォール時の対処要領など、救助訓練を
実施

われら精鋭部隊! ⑨ 【教官紹介コーナー】

主査 高瀬 紘士 (富士市消防本部から派遣)



上級幹部科(12月4日~6日)を担当しました。事例研究において、各消防本部が直面している課題について熱心に討議を行う幹部職員の姿は、「消防人」としての誇りと熱意に満ちており、改めて仕事の素晴らしさを感じることができました。

また、初任教育では、多様化する災害や住民のニーズに対応できる職員育成のため、精神的・形式的な教育から、論理的・科学的・創造性を求める消防教育に心掛け指導しています。担当する危険物の講義では、「アクティブラーニング」を取り入れ、危険物取扱者試験の合格率を飛躍的に上昇させることができました。

【初任科生へ】 『従流志不変(流れに従い志は変えず)』

変化し続ける社会に対し、常に飽くなき探究心を持ち、修得した知識や技術を柔軟に変化させなければならない。しかしながら、心に思い決めた目的や目標は、最後まで貫き通せ!

危険物担当として、初任科生の危険物試験合格率 100%を使命に、熱血指導を行う一方、実科訓練では、機器取扱訓練のチーフとして、初任科生に対して冷静沈着に消防活動全般の最新技術を指導する、派遣1年目の教官である。

… 小柄だが鍛え抜いた体は凄い…です

(校長・副校長)

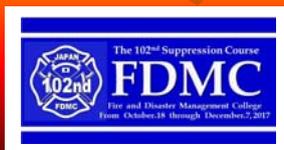


消大レポート

第2弾!!



警防科第102期



主査 宍井 一滋 (湖西市消防本部から派遣)

10月18日から12月7日までの約2か月間、東京都調布市の消防大学校で警防科第102期を受講してきました。

ここでは、警防業務の最高峰に位置し、北海道から沖縄まで全国から60名の消防士が集結し、警防隊員としての知識・技術の習得と共に、指導者としての資質を向上させる為の教育訓練を受けてきました。

「多数傷病者対応訓練」「NBC災害対応訓練」「中隊指揮訓練」「危険物火災訓練」等々、様々な教育訓練により大変充実した日々を過ごしてきました。



多数傷病者対応訓練



NBC災害対応訓練

消防のプロとは、
当たり前のことを
当たり前のようにやる!



中隊指揮訓練



危険物火災訓練

消防の「プロフェッショナル」とは何なのか？
多くのことを学んだ2か月でした。
この貴重な経験と第102期の仲間との絆を県消防学校における教育訓練、所属、そして県内の消防活動に生かしていきたいと思ひます。





台湾



台北松山国際空港
我々の到着を
綺麗な虹が
出迎えてくれた

10月17日(火)、チャイナエアラインにより一路台湾へ。
今回は、杉保 県危機管理部長、渡辺 下田消防本部消防長、細沢 県消防保安課長
ほか県危機管理部職員らとともに、

- ① 台湾内政部消防訓練センター(南投県竹山鎮社寮里大公街100号)への表敬訪問及び李センター長との意見交換
- ② 日台防災協力セミナー(高雄大学)及び高雄市政府消防局との「防災における相互応援協定」締結式への出席
- ③ 高雄市の旧小林村(2009年8月、累積雨量3,000mmの集中豪雨により山腹斜面が深層崩壊し、村の中心部が埋没。死者397人、行方不明53人)の被災現場視察
- ④ 国立成功大学防災研究センター及び台南市政府消防局への表敬訪問等を目的に出張しました。

このうち、消防学校長として最も大切な用件、台湾内政部消防訓練センターへの訪問に関して、紙面の都合上、ほんの少しですが(遅ればせながら)御報告します。



新幹線で「台北」から「台中」へ
約1時間



センター車両で「南投県」へ
約40分



「訓練センター」入口付近より

(左から) 渡辺消防長、澤野学校長、杉保部長、李センター長

台湾内政部消防訓練センターの李センター長の案内により、専用カーにに乗車して訓練施設を視察した後、意見交換を行いました。

主な話題は、訓練センターの状況、今後の静岡県との交流、下田市の消防車両の寄贈についてでした。

訓練センターの教官は、全員各消防局からの出向職員で、1年任期16名。3~4割の教官については1年の任期を2~3年に延長して熟練を図っており、現在10名。計26名の教官体制となっているそうです。



杉保部長と李センター長



今後の静岡県との交流の中で、本県からの教官受入れ等について、「センター施設の体験訓練を含め、日本の教官が来てくれるのは、技術交流として相互にスキルアップが図られる」と李センター長は大歓迎でした。年間で2、3回、期間は1週間程度で受入れを考えたことの意向で、「そのうち1回は静岡県から「救助」の教官を派遣してもらい、教官の指導の下、訓練を実施したい」とのお話でした。

また、李センター長は「具体的な教官同士の交流を進め、教官同士で話し合っ、具体的なプログラムを決めるのがベスト」ともおっしゃっていました。コスト負担を含め、WIN-WINの形での実現が双方共通の希望です。

県内消防本部の研修・訓練の受入れについても「受入れは可能。静岡県の場合、費用負担を軽減する。」との回答でした。

訓練センターと県消防学校の友好関係強化については「問題ない。大歓迎。」と、李センター長は大いに乗り気の様子でした。

つなぎ始めた関係を大切に、まずは教官交流から始め、今後交流を本格化させていきたいと思います(姉妹校提携も実現できるかもしれません)。

杉保部長 細沢消防保安課長



李センター長 澤野学校長 渡辺消防長

総合大楼で記念写真を撮影。玄関の電光掲示板には「歓迎 静岡県危機管理部」と表示されている。

李センター長とは、今年8月に台湾訪問団が静岡にいらしたとき以来。これほど早く再会できるとは思っていませんでした。

訪問団の一人、訓練センターの崔教官(高雄市政府消防局支援)から、日本訪問時の立派な写真集(下の写真)をいただいた。

モデル集合住宅でのほしごを用いた救出訓練。



【操作監督塔】

6階の集中コントロール室では、各訓練場区の火災規模や燃焼時間などの訓練シーンを設定できる。監視モニターによるチェック等により、各訓練場の訓練状況を監視し、受講者の安全管理も確保。

訓練センターはとにかく広い(敷地面積計109万平方メートル、うち防災訓練場区は約38.6万平方メートル)。歩いては回れない。様々な災害に対応する災害シミュレーション訓練場が13~14あり、60種類以上の救助訓練施設が広大な敷地内に設置されている。更に施設をつくる余裕はまだ十分にある。

【モデル激流救助訓練施設】

激流から要救助者を救助する訓練だけでなく、激流に飲み込まれた場合にどうなるのかを体験する施設。歯を折る訓練生が出るなど、相当危険な訓練となるらしい。

【新宿泊棟】(本年完成)

9月中旬に行われた完成式には本県から危機管理監が出席。

訓練生の宿泊室(6人部屋) 各宿泊室には洗面所・トイレ・シャワーが備えられている。

食堂(本校と雰囲気は同じ) ここでの昼食で来客用として桜海老が料理として出された。台湾では桜海老は一般的だそう。台湾と静岡は「桜海老」つながりでもあることを初めて知った。

